

◆ みんなで協力・夏の草刈終わる

今年の夏、グリーンパーク植林地の9456㎡の草刈は「古賀市10万本ふるさとの森づくり」メンバーの協力で7月9日完了しました。



草刈は緑の会員が中心となり、古賀市職員、福岡GH、九電職員が行いました。「育林行動」以外で実行した草刈は過去8年間で初めてでした。

5月の「夏の育林行動」は新型インフルエンザ発生騒動の影響で中止しました。しかし、草刈を放置すると植林地は草に覆われ、小さな苗木は成長をはばまれ、枯れることもあって、森づくりに影響が大きくなります。

会員は草刈時間をつくり、日程を調整し25日間にわたる第1回目の草刈を完了しました。

◆ はなちどい だより

毎週火曜日のはなちどり作業日、ハウス内の花苗手入れから花壇の管理にと、毎回大勢の方が参加されて、名目どおり“緑”の活動拠点となっています。7日は道路側ひまわり花壇の手入れをしました。汗の噴出する暑い中の作業でも、タブノキの木陰で飲むお茶のおいしいことは最高です。

また、その時のおしゃべりが楽しく、常日頃のみんなを繋ぐ絆になっているように思われます。

ハウス内では来春用花苗の準備が始まります。パンジー・ビオラを中心に10数種類の苗を種子から育てます。少し神経の疲れる作業もありますが、元気な苗が育つことを期待して頑張ってください。



◆ 古賀東小“お花は元気ですか？”



7月16日(木)、5月にえんがわくらぶと3年生で、校区内のお年寄りにプレゼントしたお花をたよって「お花は元気ですか？」と再訪問しました。緑の会で準備した花が、もしも元気がなかったら可哀そうだと、はなちどりで育てたポーチュラカの苗を準備して、15軒の一人住まいのお年寄り宅へ向かいました。

天気にも恵まれ、元気な子ども達に引っ張られるようにして訪問したお家では、一番にプレゼントの花鉢を見つけて歓声が上り、玄関に出られたお年寄りの嬉しそうな顔が印象的でした。

持参したポーチュラカは、植え替えてあげたり他の鉢に植えたりして、これからもお年寄り子ども達をつなぐ、楽しいまちづくりの行事が続いています。

◆ 新植地・2度目の草刈進む

7月第2回「森づくりの日」は23日9時、10名の会員がコスモス館に集まり、コスモス館南側植樹地の草刈に取組みました。コスモス館南側には低木サザンカとレンギョウがあり草丈は伸びていました。樹木は低い上に枝が張っていて草刈作業は困難でした。大暑のこの日は厳しい日差しで気温が高く、参加の皆さんは額の汗を拭き拭き、草刈りを続けました。皆さんの頑張りですぐ前にコスモス館南側植樹地の今年2回目草刈は完了しました。草刈を終わって飲む冷えた缶コーヒーのうまさは格別で、差入れの菓子を頬張り、達成感を胸にしまい、しばし憩いを楽しみました。青柳小どんぐりの森、同隣接の新植地の2回目の草刈は終わっています。

◆ “緑”を支える陰の主役！

古賀市緑のまちづくりの会には日ごろ目の届かないところの活動があります。会活動には、森づくりと園芸福祉の2本の柱があります。森づくりは3月の植樹祭、草刈。園芸福祉活動では、イベント参加や古賀市内施設、街中に花を飾ります。森づくりでは青柳小学校のどんぐりの森の苗木づくりがあり、苗木の灌水主役は子どもたちですが、灌水不足、草取りなどに2名の有志会員が交代で目を光らせています。園芸福祉では常に花苗を育てる一方、はなちどり、図書館前など花苗の灌水に8名の有志会員が交代で活躍しています。10名の有志会員は苗木や花苗の灌水に注意を怠らず、年間を通じて苗木や花苗管理に気配りを続けています。会員の陰の日常活動は、緑のまちづくりの会の底力になっています。

◆ 森づくりとクズ退治

植林地の樹木の成長を邪魔するものにツルがあります。代表的なツルはクズ（マメ科）です。

ツル類は成長が早く放置すると樹木の上にツルを伸ばし広がって樹木の成長を抑え、木に巻きついて木の姿を変え、ひどい場合、樹木を枯らします。他のツルでも同様の現象が現れます。

クズは切ってもまた成長を始めます。根全体の掘取りは大変ですが、発芽瘤の掘取りで比較的簡単にクズ退治できます。会では、クズ退治が森づくりの成否を分けるのでクズ退治に努めています。しかし、次々に生えるクズ退治は根気強さが欠かせません。

古賀GP植林地の樹木を脅かすツル類は多様で、多年生のクズ、テイカカズラ、スイカズラ、カラスウリ、ヤブガラシ、フジ、1年生のカナムグラ、ヤブマメなどがあります。

◆ 谷口博隆さん園芸福祉普及協会理事に！

緑の会員で古賀の活動を全国へ情報伝達する等で御世話になっている園芸福祉士の谷口博隆さんが、6月27日東京農業大学で行われたNPO法人園芸福祉普及協会の21年度通常総会において、協会の理事に選任されて、九州で2人目の理事が誕生しました。

今後、地域の園芸福祉活動の更なる発展が期待されます。また私達も共に頑張りたいと思います。

会員の声

印象に残る「緑の愛護賞」旅

機械鉄工工場で鉄を切り、曲げ、穿孔、溶接、研磨を40年続けて退職しました。その後ハローワークに通っているとき、広報で「えんがわくらぶ」を知り、1年間修業したのち、緑のまちづくりの会の一員になり大イベントの植樹祭に参加しました。

それから3年後、緑の会が国土交通省の「緑の愛護賞」を受賞することになり、愛知県一宮市に薛先生と青崎代表、宿理森づくり幹事と私も同行することになりました。

4名は平成18年4月19日、薛先生の運転する自動車で高速道路深夜料金を利用して夜中に走り出しました。夜明けの20日の朝、先生は疲れも見せずに私達と名古屋郊外で朝食をとり、その足で中仙道、馬籠を散策し、一宮市の会場を下見して長野県恵那市の恵那山荘に泊まり、先生はここでやっと休養をとることができました。21日朝は、4月中旬というのに福岡では考えられない白銀の世界でした。その日は雪の残る木曾の赤沢自然休養林を見学して、岐阜市内泊となりました。

22日は一宮市木曾三川公園の式典会場へ向かい、10時から皇太子殿下の御言葉のあと、表彰式では青崎代表が授賞して、皇太子殿下の桜の記念植樹があり、一般参加の私達も桜を植樹しました。

14時30分に式場を離れると車を置いた宿に帰り、高速道路を一路九州へ。またまた、薛先生の一人運転でした。23日早朝、古賀に到着して授賞旅行は多くの思い出を残し終わりました。

あれから3年たち、10万本植樹祭も残すところ2回になりました。今年5月の育林行動はインフルエンザ騒動で中止になりましたが、あとの草刈は会員で頑張っています。

石橋 喜代人